

第 22 回新潟県社会教育研究大会三条大会
視察記録

2022/12/3

社会教育委員 清水隆太郎

【研究主題】

地域の未来を創造するこれからの社会教育 ～「人づくり」「地域づくり」に向けて～

【期日】令和 4 年 11 月 16 日(水)

【会場】三条市中央公民館

<事例発表>

▼第 1 発表 妙高市

テーマ：時代に引き継ぐ地域の宝 ～地域一丸となった鳥坂山の再生～

・高床山ではキャンプ客が減少し、地元小学生が校外活動で整備していた案内等の整備がされなる課題があった。

・有志で桜を植えるプロジェクトが立ち上がり、植樹～管理までです。10 年で 250 本を植樹した。植樹したオーナーで冬囲いをしたり、季節ごとに体験やイベントを実施している。

・発表者の高橋氏は社会教育分野で活動してきた。社会教育行政人は行政の仕事だけでなく、もっと地域の活動に参加すべき。自分の住んでいる地域でやってみる。

▼第 2 発表 出雲崎市

テーマ：「放課後子ども教室」「良寛学習」による地域の資源を活かした魅力あるひとづくり・地域づくり

・出雲崎は江戸時代には 2 万人が住んでいて、越後一の人口密度を誇った町。

・放課後子ども教室は月～金で実施し、スポーツや昔遊びを行っている。

・良寛学習は小学生から中学生まで各学年の段階に応じて課題・テーマを設けている。

・今後の課題は人材や研修機会の確保、活動を周知する広報に力を入れたい。

・出雲崎は子供医療費が無料で、県内でも珍しく昨年対比で人口が 4 人増えている地域。

▼第 3 発表 阿賀野市

テーマ：キッズ防災教室 ～自己防衛力の向上がもたらすもの～

・防災教室では身近なもの、テーマを活用している。

・震災に備えるイメージを持つことで自分事になる。

・ハザードマップ作成や防災食に触れる機会をつくる。

・地域で助け合う関係性が大切。

<講演会>

▼三條市立大学 学長 アハメド・シャハリアル氏

演題:三條市立大学のミッション ~ものづくりのまち三條における未来の「人づくり」「地域づくり」~

- ・三條市立大学の人づくりのキーワードは「デジタル」「グリーン」「ヒューマン」
- ・イノベーションを起こすためには「ビジネスの種(サービス・商品)」「ビジネスを育てる人」「経済の循環」が揃っているビジネスフィールドが必要。
- ・これまでの成功体験が通用しない時代になってきてる。社会人もリスクリング(学び直し)が必要になる。
- ・三條市立大学は実学志向。工学を学ぶだけでなく、実践を通じてリアルに落とし込む体験を積む。
- ・日本の産業構造は縦型だが、これからは横のつながりが必要になる。

【研究大会参加報告書】

第22回 新潟県社会教育研究大会三条大会
令和4年度 中越地区社会教育研究集会 に参加して

1 研究主題

地域の未来を創造するこれからの社会教育 ～「人づくり」・「地域づくり」に向けて～

2 日 時

令和4年11月16日（水）13:00～16:30

3 会 場

三条市中央公民館 （※オンライン参加）

4 内 容

(1) 開会式・表彰式

- 会長挨拶や県教育長祝辞等があった。
- 令和4年度新潟県社会教育委員連絡協議会表彰で、13名の方が表彰された。

(2) 事例発表

- ① 妙高市『次代に引き継ぐ地域の宝 ～地域一丸となった鳥坂山の再生～』
 - 様々な個人や団体が作り手として参加できる仕組み、楽しく参加できる仕掛け、若者世代への継承に係る良い事例だった。
 - 「社会教育人はまちづくりの総合商社」「行動する社会教育人の時代へ」という言葉が印象的だった。
- ② 出雲崎町『「放課後子ども教室」「良寛学習」による地域の資源を活かした魅力ある人づくり・地域づくり』
 - 公民館事業だった「出雲崎ッズ」を放課後子ども教室に拡充した取組だった。
 - 小中の9年間、地域の先人である「良寛さん」をテーマに学習を進め、子どもたちが地域に誇りをもち、文化・伝統を後世に語り継げるようにしている事例だった。
- ③ 阿賀野市『キッズ防災教室 ～自己防衛力の向上がもたらすもの～』
 - 市の生涯学習課が主催して実施した「キッズ防災教室」の取組だった。
 - 地域の人材を講師として迎え、身近にあるものでいざという時に備える、自己防衛力を高める事例だった。

(3) 講演会

- 演題
『三条市立大学のミッション ～ものづくりのまち三条における未来の「人づくり」・「地域づくり」～』
- 講師
三条市立大学 学長 アハメド・シャハリアル 様
- 講演概要
 - 三条市立大学の開学理念・・・産業を担う人づくりを通しての地域づくり
 - 持続可能にするためには、15度上向きでなければならない
 - 地域づくりには、「自信と誇り」「創造性と想像力」「若い世代」「早期教育」「伝統の継承」が重要
 - 技術革新（イノベーション）を起こすためには、市場分析と商品企画、空想でない実現可能なアイデア、そして、自分で自分の腑を落とすまで考えること

(4) 閉会式

5 感 想

- 3人の事例発表やアハメド学長の流暢な日本語での熱い語りを通して、大学や人づくり・モノづくりに対するものすごい情熱を感じた、有意義な研究大会でした。

（報告＝竹田暢美）

第22回 新潟県社会教育研究大会三条大会 令和4年度 中越地区社会教育研究集会 報告

新潟市社会教育委員 平山 智康

- 1 研究主題 「地域の未来を創造するこれからの社会教育
～「人づくり」「地域づくり」に向けて～」
- 2 期 日 令和4年11月16日（水）
- 3 会 場 三条市中央公民館及びWEBによる参加
- 4 研究大会の次第
 - (1)開会式・表彰式（13:00～13:30）
 - (2)事例発表（13:30～15:00）
 - ①妙高市「次代に引き継ぐ地域の宝
～地域一丸となった鳥坂山の再生～」
 - ②出雲崎町「放課後子ども教室・良寛学習による地域資源を活かした魅力
あるひとづくり・地域づくり」
 - ③阿賀野市「キッズ防災教室～自己防衛力の向上がもたらすもの」
 - (3)総評（15:00～15:10）助言者：佐藤 裕紀 様（新潟医療福祉大学 講師）
 - (4)講 演（15:20～16:20）

演題 「三条市立大学のミッション ～ものづくりのまち三条における未来
の「人づくり」・「地域づくり」～」

講師 アハメド・シャハリアル 様（三条市立大学 学長）
 - (5)閉会式（16:20～16:30）

5 感想

講演では、地域と協働した「人づくり・ものづくり」の取組が示された。地域創生や地域連携に欠かせない重要な視点として、紹介された点について記す。

○地域創生に必要なものは？

→そこに住んで・生活を営んでいる人々の自信と誇り

○持続可能な地域（社会）づくりに必要なものは？

→・創造性と想像力

・若い世代が重要

・早期の教育が非常に重要

・熟練した人々と失敗を恐れずにリスクを冒しても挑戦する人々

・地域社会からの納得

○地域の伝統や歴史は守らなければならない

→伝統・・・長い間コミュニティに生き残ってきた慣習・儀式・習慣

歴史・・・時代の経過とともに地域に起こった、様々で重要な出来事や施設

第22回 新潟県社会教育研究大会三条大会
令和4年度 中越地区社会教育研究集会 報告

2022.11.17 山岸則子

研究主題 地域の未来を創造するこれからの社会教育
～「人づくり」「地域づくり」に向けて～

期 日 令和4年11月16日(水) 13:00～16:30

会 場 三条市中央公民館

参加者 県及び市町村社会教育委員、社会教育・社会体育・学校教育関係者

1 開会式・表彰式 (13:00～13:30)

2 事例発表 (13:30～15:00)

①妙高市 次代に引き継ぐ地域の宝 ～地域一丸となった鳥坂山の再生～

発表 高橋 勉氏

内容 小学校廃校の影響で活気のなくなった鳥坂山の城址やキャンプ場里山の保全活動。地元コミュニティ組織を核に活動を通じた世代間交流。

②出雲町 「放課後子ども教室」・「良寛学習」による地域の資源を活かした魅力

あるひとづくり・地域づくり 発表 高桑佳子 氏

内容 町内は1小学校1中学校という環境を強みに、9年を通しての総合学習で良寛さんの学習に取り組む。

地域ぐるみで子どもたちの居場所づくりとして放課後子ども教室を実施。様々な体験活動を行っている。

③阿賀野町 キッズ防災教室 ～自己防衛力の向上がもたらすもの～

発表 五十嵐貴子 氏

内容 幼少期から自己防衛力の育成のために開催。防災グッズ作り、防災食作りを行った。

総評 10分

3 講演 「三条市立大学のミッション」(15時20分～16時20分)

講師 三条市立大学 学長 アハメド・シャハタリアル 氏

4 閉会式

感想

- ・事例発表ではその地域性や特性、地域課題に応じた活動がわかりやすく発表された。広域にわたる新潟市ではどこに特化して取り組むべきか深く考えていきたい。
- ・社会教育→生涯学習、地域づくり、人づくり、と多岐にわたる。その中でいかにたくさんの人を巻き込んで活動していくか、工夫が必要と考える。

第 22 回 新潟県社会教育研究大会 三条大会
令和 4 年度 中越地区社会教育研究集会 参加レポート

文責：角野仁美

研究主題：地域の未来を創造するこれからの社会教育 ～「人づくり」「地域づくり」に向けて～

期 日：令和 4 年 11 月 16 日（水）

会 場：三条市中央公民館（※ZOOM 参加）

（大会趣旨より）

「一中略一地域社会の在り方も大きく変化しています。次世代へ繋いでいく伝統的な取り組みを継承したり、地域課題を解決したりしながら、人生 100 年時代に全世代がいきいきと暮らしていくためには、何が必要か考えなければなりません。」→今後の社会教育の役割の一つとして、「何が必要か？」を問い、議論する場をつくること、そこから生まれたひらめきを形にしていくことなのではと感じています。

<事例発表>

■テーマ 1：妙高市「次代に引き継ぐ地域の宝～地域一丸となった鳥坂山の再生～」

<メモと問い>

・地域に期待される「社会教育人」は、まちづくりの総合商社

「社会教育はひとづくり→参加者はまちづくりに寄与してもらいたいが、社会教育に携わった経験のある『社会教育人』がもっと地域で行動していくべき」

→社会教育人（元社会教育の関係者）の、行動を阻むものとは何か？

■テーマ 2：出雲崎町「放課後子ども教室・良寛学習による地域の資源を活かした魅力あるひとづくり・地域づくり」

<メモと問い>

・9年間、良寛さんを学んだ子どもたちは、どのようにその学びを活かしていると思うか？

・出雲崎の施策として「コウノトリ祝い金」等もある。昨年は人口が減少ではなく、4人増となった。

→「子どもたちを大切に作る町」という言葉が印象に残った。若者が暮らしたいと思う地域というのは、大人が子ども・若者を大切にすること、その姿勢・まなざしが何よりも大切なのだと思った。

Q 放課後子ども教室の実施形態は？

A 出雲崎は小中1つずつのみ。その中で実施している。

Q 児童クラブと放課後子ども教室の一体的な運営とあるが、参加人数は？

A 児童クラブも1つ。児童クラブは、小学校に併設。それぞれの参加は、自由にしている。週によってやる内容が違うので（野球など）それによっても参加人数は変わる。

Q 地域の方を巻き込む知恵は？（佐渡市の場合は、コーディネーターが一本釣りしている）

A 出雲崎も同じ。チャンスは逃さない。人材登録をしているが、活用できていない。地域の民謡、太鼓などの関係者に声掛けしている。

Q 放課後子ども教室と良寛学習の関係は？

A 良寛学習は学校の総合学習で9年間取り組むもの。今のところは、別で分かれている。

Q この2つの活動に、社会教育委員がどのように関わっているのか？

A 社会教育委員は、学校地域支援本部事業のコーディネーターとして大きく関わっていただいている。

良寛学習の中で色々な形で説明したりもしている。組織的な関わりは無いが、会議の中で話題に出ることはある。

■講演会「三条市立大学のミッション～ものづくりのまち三条における未来の人づくり・地域づくり～」

講師：三条市立大学 学長 アハメド・シャハリアル氏

<メモ>

・当初の計画・ミッション：魅力的で高度な教育の機会を求める若者の提出抑制を図るため実学系大学をつくること。

・大学と地域（地方）大学は、その地域の課題に取り組むべき・・・局所的なミッションを持つ。

→地域産業の持続的な発展に資する人材（TALENT）の育成を目指した大学構想

→**地域力（リソース）を活かしたユニークなプログラム**を考える

DEGITAL：AI

GREEN：再生可能、脱酸素、自然思考（EUの規制の波は今後訪れてくる）

HUMAN：多様性、学び直し、ヘルスケア

→これを想定した人材育成

→未来思考の大学づくりが大切。

・**地域創生に何よりも大事なものは！その地に住んで営んでいる人々の自身と誇り。**

・イマジネーションが先、テクノロジーは後からついてくる。

【KEY WORDS】

・技術や経験の「共有」・・・国や地域を越えて、良い社会を実現していくためのテクノロジー

・18歳意識調査→意識もグローバル・スタンダードに合わせる必要があるのでは？

・日本：GDPが横ばい→INNOVATIONが大切。色々な学問の融合によって、技術革新が起きる。

イノベーションを起こす条件がある。人「テクノロジスト」、種「テクノロジー」、土壌「ビジネス」の3つが必要。そのNEXUSを起こす場所は日本にそんなに無い。